

枚方淀川探鳥会2023年12月

I 今月の鳥 オオタカ

2023年(令和5年)12月3日(日) 9:00~12:00
 日本野鳥の会大阪支部 担当 前田初雄、甲田正二
 西脇 淳浩、香月 清宏、松井正夫、新名泰博
 平 軍二(☎090-6901-1425) (Eメール g.0501.hi@gmail.com)



20230718竹内氏(幼鳥2羽)

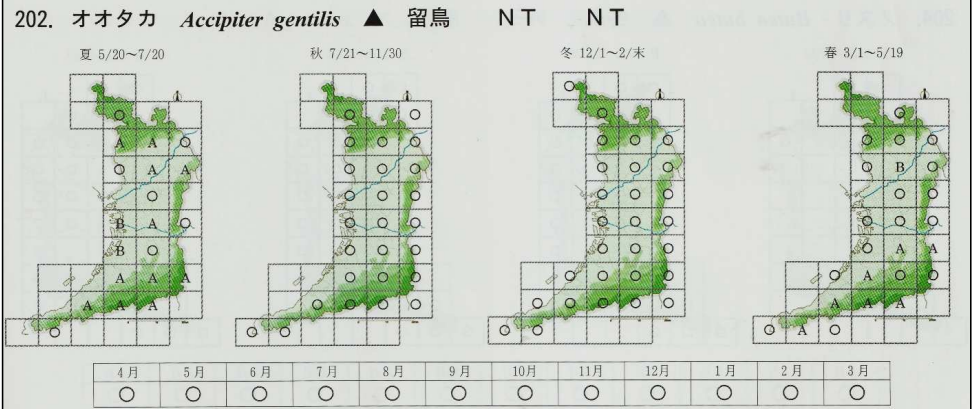


20230719山田氏(幼鳥3羽)

今月の鳥は2023年枚方淀川探鳥会のコースで繁殖し、3羽のヒナが巣立ったオオタカにしました。
 上記、オオタカ幼鳥の写真は、枚方野鳥の会竹内氏・山田氏撮影によるもので、同会藤原会長経由で今月の枚方淀川探鳥会資料への掲載をご了解いただいた。
 枚方淀川探鳥会でのオオタカの観察記録は、今年に入って2月・3月・4月・6月・7月と5回もあり、特に7月はヒナと思われる鳴き声も聞いている。

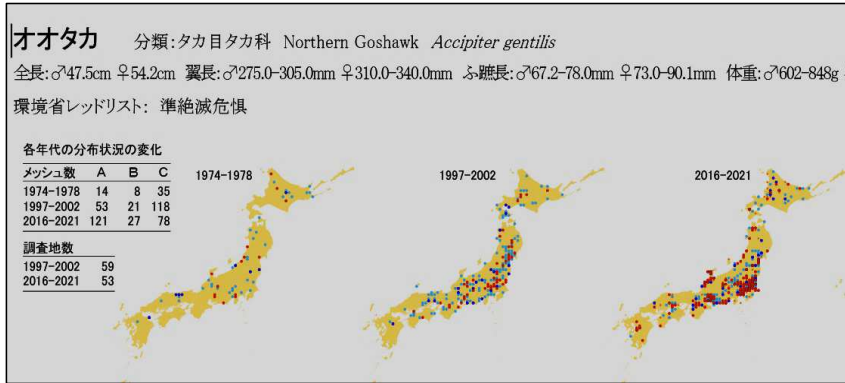
I-①オオタカ:大阪府の状況 大阪府鳥類目録2016(日本野鳥の会大阪支部)

大阪鳥類目録2016で見ると、枚方市周辺のオオタカ繁殖地(A)は2535-15山田池公園である。2535-14は淀川本流で繁殖しているかに見えるが、万博公園が同一メッシュに入っているためであり、淀川本流に繁殖記録は無いはずである。そのため、淀川河川敷の繁殖記録は今回の枚方淀川探鳥コースが、初記録となる。



I-②オオタカ:全国の状況 全国鳥類繁殖分布調査(2016-2021)

全国の分布は1970年代から1990年代にかけて急激に拡大した。1990年代から2010年代にかけてはAランクメッシュ数が拡大している。



I-③ オオタカ保護の歴史

オオタカは国内での生息数が少ないとして種の保存法(=絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律)に基づく国内希少野生動物種に指定されていた。

しかし、その後関東を中心に生息数が増えているなどから環境省レッドリストにおいて、2006年(平成18年)、2012年(平成24年)の2回、連続して絶滅のおそれが無くなったとして、準絶滅危惧種(NT)にランクダウンされた。

それを受けて、「種の保存法」からの解除に向けた検討が行われた。オオタカは、2017年(平成29年)に「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律施行令の一部を改正する政令」により、国内希少野生動物種から解除された。

愛知万博では会場予定地の「海上(かいしよ)の森」に、種の保存法に指定されていたオオタカの営巣が確認され、保護を求める大規模な活動が起きた。その結果、2005年(平成17年)の愛知万博の主会場が変更された。

(今は昔、オオタカの威力で万博会場が変更されたこともある)

Ⅱ 枚方淀川探鳥地 オオタカ営巣保護(樹木を残す)区域設定

昨今、異常気象頻発している状況下では、河川敷の樹木伐採はやむを得ないと思っている。今年度に入って探鳥会コース、河川敷の樹木伐採計画があることを知り、毎月の探鳥会で説明してきた。30年以上伐採されなかったことで木々が大きくなり、「野鳥通り」と名付けられているほど山野の小鳥の多い場所も入っていた。

しかも、その野鳥通りの樹林でオオタカが繁殖子育てをしたことは、前ページに記載した通りである。

本来里山の象徴であるオオタカの河川敷での繁殖は、大阪府としては初めての事例であり、非常に稀な記録である。

そこで河川敷ではあるが、オオタカ営巣地周辺の樹林は、ある程度の広さでまとめて残してほしいと、地元淀川で活動しているの環境3団体「枚方生きもの調査会」「枚方野鳥の会」と、「日本野鳥の会枚方淀川探鳥会」が共同で、国土交通省・淀川河川事務所に申し入れ、交渉してきた。

先週11/29、淀川河川事務所、樹木伐採担当者、上記環境3団体が現地を確認し、樹木を残す範囲を決定した。

今回、淀川河川事務所から提示された樹木を残す範囲は、先月探鳥会資料で報告した環境3団体の希望より広く設定されていた。淀川河川事務所は元淀川環境委員会委員で、大阪自然環境保全協会(元会長)高田直俊先生に意見を聞いており、高田氏はオオタカ営巣保護のために、生息範囲を広くするよう進言してくれたと思われる。



今後の樹木伐採計画

これまで鳥を楽しんできた野鳥通りの樹林は、上記「オオタカ営巣保護区域」を除いてほぼ全伐される。

また今後の工事日程では「2023年度中に完了」となっている。

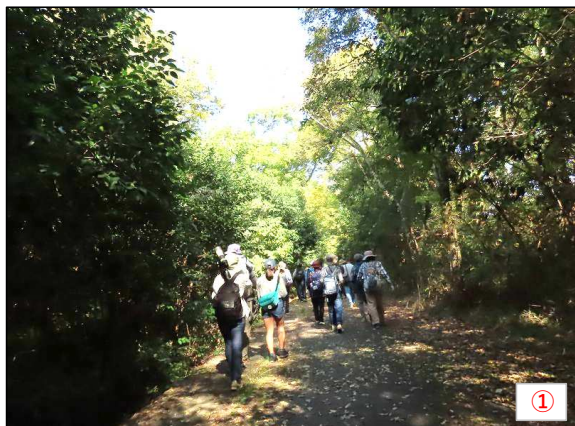
尚、「野鳥通り」の「オオタカ営巣保護区域」周辺の伐採作業は、オオタカの営巣活動に入る前(できれば12月未まで)には終わるようお願いしていることもあり、今年中に伐採作業が終了すると思われる。



←オオタカ
(20230402)
(西脇淳浩)

今回営巣・子育てをしたと思われる親鳥

Ⅲ 淀川河川敷の今・野鳥通りの樹木伐採中(20231129)



←左右→
同じ場所

野鳥通りの真
ん中

←231105
231129→

①



②

↑北側を見る（野鳥通り真ん中）南側を見る↓

Ⅱで説明のように「オオタカ営業保護区域」は樹林として残るが、それ以外は、先月資料で報告した如く、50mに1本程度のみ残るのみで、ほとんどの木が伐採される。

①上左写真は30年以上伐採されていなかったことで、「野鳥通り」と名付けられるほど林の鳥が多かった場所の11/5探鳥会での景色、河川敷よりは山地の遊歩道を思わせる光景である。

②上右写真は、上左写真とほぼ同じ所の11/29の光景である。写真の左側に木の切られていないところが残っているが、オオタカ営業保護区域として残される予定の場所である。

③右写真は11/29野鳥通り真ん中で南側を見た景色で、いままで全く気づけなかった鉄塔が良く見えます。



③



(磯島グランド南西)

残された木



(磯島グランド北側)



(センダン)

切り株

(エノキ)



伐採木集結



↑2017年伐採地

6年前の伐採地

2017年 ↑
残されたエノキ

樹木伐採後の変化

上記のように、伐採後の姿は見かねるほどですが、2017年に伐採された箇所が、実験池すぐ北側にあります。

11/28確認した所左写真のように、変化していた

緊急用車道左側は全伐区域

〃 右側には残されたエノキ

今後は、「木々の生長とともに変化
する観察鳥の変化」を楽しみに、探鳥
会をすすめたいと思っています。

IV 先月(11月)探鳥会報告・クロツラヘラサギ



左クロツラヘラサギ5羽, 右コサギ1羽

鳥写真
(西脇淳浩)



↑セグロセキレイ



←カワセミ

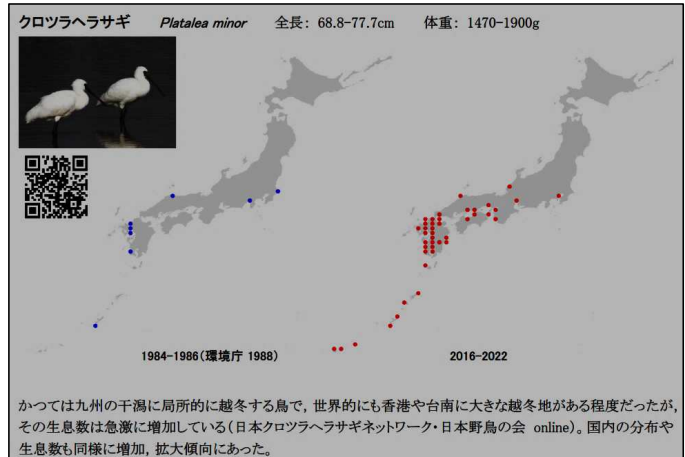
クロツラヘラサギが淀川本流に飛来 ↑

「寝屋川市～枚方市間の淀川本流に、クロツラヘラサギが12羽の群が飛来している」と11月資料に記載したが、探鳥会の日もいて、5羽観察することができた。

「大阪府鳥類目録2016」による大阪府での確認は単発的であり、今回のように12羽もまとまったの観察は初記録ではないかと思えます。

「全国鳥類越冬分布図:クロツラヘラサギ」 → (パードリサーチ・日本野鳥の会)

国内での越冬状況を1980年代(環境庁調査データ)と比較されている。以前は点々だったのが九州から本州に広がっていることがわかる。今回の観察もこんな全国的な影響が出ているかと思われる。



(大阪支部HPへの11/5報告)

京阪電車で人身事故があり、大阪方面からの参加者が足止めになり、遅れるとの連絡が何人もから入った。探鳥コースが一度南下して北上するため、1時間遅れでもOKと返事し、お待ちしたところ、4人の方が遅れて参加された。

幸い南下コースの途中で、10日ほど前から淀川を南北に移動し観察されていて人気の、クロツラヘラサギの群5羽が観察できたため、先発隊の移動がゆっくりで、合流することができ、全員で探鳥会を実施できた。到来を予想していたが冬鳥のカモが出ないまま終わったが、ジョウビタキ・アオジが出て39種を確認した。

淀川枚方探鳥会コースに、30年以上樹木が伐採されておらず、「春秋の渡り鳥のキビタキ・コサメビタキ」、「冬鳥のシロハラ・イカル・アトリ」、「留鳥のシジュウカラ・エナガ・メジロ」などが良く観察できることから、「野鳥通り」と名づけられた場所がある。淀川河川事務所が昨今の異常気象への対策から、樹木伐採計画を発表したため何度も打ち合わせをしたが、伐採が決定したことを探鳥会資料に記載し、現地で説明もして、参加者に理解して下さるようお願いした。

V 2024年1月探鳥会

今回は1月7日(第1日曜日)になります。

今月同様、大阪支部HPで、ホームズ様式からのお申し込みをお願いします。

冬鳥がほぼ出そろう時期です。例年観察できる鳥のうちツグミは樹林が無くなっても草はらにいたるため見られますが、シロハラ・イカル・シメなどは出ない可能性が高いと思っています。

例年であれば、冬季に50種前後観察できる場所ですが、樹林が少なくなると林の鳥がいなくなると思われるので、草原の鳥・水辺の鳥に期待し、45種ほどが出てほしいと思っています。

VI 探鳥会観察チェックリスト

日本 鳥類 目録	鳥名	12.1~ 22.12 観察回	2023										
			4/2	5/7	6/4	7/2	8/6	9/3	10/1	11/5	12/3		
5	キジ	43	3		2	1					1	1	
21	ツクシガモ	1											
26	オカヨシガモ	44		雨			夏						
27	ヨシガモ	13	10	天			休						
28	ヒドリガモ	42		中			み						
29	アメリカヒドリ	5		止									
30	マガモ	54	1										
32	カルガモ	86	12		6					6	4		
34	ハシビロガモ	7											
35	オナガガモ	8											
36	シマアジ	1											
37	トモエガモ	1											
38	コガモ	56	10										
42	ホシハジロ	36	3										
43	アカハジロ	4											
46	キンクロハジロ	39											
47	スズガモ	6											
59	カワアイサ	44											
60	ウミアイサ	3											
62	カイツブリ	41	1								2		
64	カムリカイツブリ	53	2										
66	ハジロカイツブリ	3											
74	キジバト	103	4		2	1		7	11	4			
83	シロエリオオハム	1											
127	カワウ	102	7		6			5	7	14			
139	ゴイサギ	9			1	5							
141	ササゴイ	15											
143	アマサギ	2											
144	アオサギ	104	2		1	1		2	2	3			
146	ダイサギ	100	5		6	2		3	5	4			
148	コサギ	91	5		1	1		2	2	6			
153	ヘラサギ	1											
154	クロツラヘラサギ	0									5		
166	クイナ	11											
170	ヒクイナ	6											
174	パン	21											
175	オオパン	43	53								26		

日本 鳥類 目録	鳥名	12.1~ 22.12 観察回	2023										
			4/2	5/7	6/4	7/2	8/6	9/3	10/1	11/5	12/3		
185	ホトギス	2											
187	ツツドリ	2											
188	カッコウ	1		雨			夏						
192	アマツバメ	2		天			休						
194	タゲリ	1		中			み						
195	ケリ	27		止									
202	イカルチドリ	9											
203	コチドリ	29	1										
204	シロチドリ	4											
219	タシギ	4											
227	チュウシャクシギ	2											
235	アオアシシギ	1											
239	クサシギ	3											
241	キアシシギ	1											
244	イソシギ	74	1								2	2	
251	トウネン	1											
266	ハマシギ	1											
286	ユリカモメ	21											
293	ウミネコ	3											
294	カモメ	2											
299	セグロカモメ	19											
307	コアジサシ	9											
339	ミサゴ	61									2	2	2
340	ハチクマ	2											
342	トビ	83	3		1	3		2	2	2			
349	チュウヒ	1											
355	ハイタカ	29	2										
356	オオタカ	20	1		1	2							
357	サンバ	1											
358	ノスリ	32											
366	オオコノハズク	1											
383	カワセミ	88	2		2	1		5	2	4			
388	アリスイ	9											
390	コゲラ	85	2		5	3		4	3	2			
393	アカゲラ	6											
401	チョウゲンボウ	48	1			3					1		
407	ハヤブサ	26											

